

令和元年10月31日～11月2日 市民クラブ（益田政昭・下田昇一郎・五嶋善彦・澤井一富）

◆認定NPO法人 ふるさと回帰支援センター

【ふるさと回帰支援センターについて】

1. ふるさと回帰支援センターの現状について
2. 移住希望者のニーズと傾向について
3. 移住・定住に対する国の方針について
4. 熊本県への移住希望者の傾向について

◆中央大学理工学研究所

【亜臨界水資源再生装置技術について】

1. 亜臨界水資源再生装置の機能性とコスト及び実績について
2. 亜臨界水資源再生装置実装方法について
3. 亜臨界水資源再生装置の普及促進について

◆第15回地域医療政策セミナー

講演1 「“患者流出”>“流入”医療圏におけるイノベーション

～目指すべき方向の明確化とPFIの活用～

講師 八尾市立病院 総長 星田四朗 氏

講演2 「超高齢社会に求められる地域医療のかたち」

講師 医療法人社団悠翔会 理事長 佐々木淳 氏



◀亜臨界水資源再生装置について語る松下潤中央大学理工学研究所博士(右)

ふるさと回帰支援センター内に設置された熊本県ブース(右端が天草市)▶

視察報告

ふるさと回帰支援センターでは、関東圏から全国の地方への移住・定住をサポートされていますが、本市における移住・定住に対する取り組みに対しては大変高い評価をいただいております。今後も本市の担当と共によりしっかりとサポートしていただくよう強く要望を行いました。

また、今回我々会派で以前から着目しているごみ処理方式「亜臨界水資源再生装置」の第一人者・松下潤博士から直接お話を聞いたことは大変有意義な時間でありました。今後のごみ処理に関する新たな方向性として引き続き着目していかなければならないと強く感じました。

また、4カ所の市民病院をもつ本市として「地域医療」のあり方について、市民病院を経営する立場と在宅医療の現場からといった違った視点から研修の機会をいただきました。



視察を終えて

今回の視察では、「移住・定住の推進」「今後のごみ処理問題」「地域医療のあり方」などについて学びました。いずれも今後の本市において重要な課題であります。今回学んだ知識や人脈を今後の議員活動に生かしてまいります。

広報広聴委員会視察報告

令和元年10月23日～25日

広報広聴委員会（柴田誠・下田昇一郎・蓮池良正・濱洲大心・鶴戸継啓・五通俊作・門口徹）

【京都府木津川市】 議会だよりの編集・発行について

視察報告

木津川市では、広報編集委員会を定例会開会の約1週間前から計6回開催され、広報編集の企画・掲載記事の検討・割付け・校正のほか、取材の際は、同委員会の腕章をつけて行われていました。また、原稿は委員が各ページを担当し、一般質問や代表質問は質問議員、委員会報告は各委員長が作成されていました。表紙には、子どもたちの行事のようす、裏表紙には市民の意見を掲載するなどの工夫もされていました。

さらに、同委員会の行政視察を毎年実施されているほか、2年に1度開催される京都府内の市町村議会広報研修会にも毎回参加され、委員の広報編集技術の向上を図られていました。



【滋賀県甲賀市】 議会だよりの編集・発行について

視察報告

甲賀市では、広報特別委員会を定例会開会後から計5回開催され、広報編集のスケジュール調整・企画・ページ担当決め・掲載記事の検討・割付け・校正のほか、取材の際は、同委員会の腕章をつけて行われていました。また、原稿は、委員が各ページを担当し、一般質問や代表質問は質問議員が作成されていました。

そのほか、読者モニター会議として、市内高校の協力を得て「高校生モニター会議」を行い特集を組まれているほか、若者や女性モニター会議も行われており、さらに一般質問のQRコードやスマートフォン無料アプリへの掲載などの工夫もされていました。

視察を終えて

両市とも、委員自ら議会だよりの企画・取材・ページ担当・編集・校正を行われ、表紙には子どもたちの学校行事などの写真を多く使用されていました。また、文字数を少なくし、写真やイラストを入れ、読みやすいレイアウトにするなどの工夫を行い、幅広い世代に興味を持っていただき、手に取っていただくという考え方は、今後の本市議会だよりの編集・発行に大いに参考になるものでありました。

令和元年10月15日～16日 新風天草（中尾友二・田中茂・濱洲大心・前田正之）

【愛知県小牧市】小牧・岩倉エコルセンター 【三重県四日市市】四日市市クリーンセンター

視察報告

天草広域連合において、新たに建設が計画されているごみ焼却施設の先進地である両施設の視察を行いました。両施設とも、焼却処理ではなく熔融炉方式を採用しており、処理後に発生するのは、メタル(鉄分)とスラグであり、どちらも重機類のウエイト(メタル)・コンクリートや舗装材(スラグ)として100%再生利用されていました。

小牧市においては、施設内で処理時に発生した熱を隣接するプールの温水に利用され、四日市市の施設においては、施設内をテーマパーク化しアトラクションを備えた見学コースが作られていました。

視察を終えて

ごみ処理施設も見方を変えた活用をすれば、子ども達の社会科研修にもなるほか、観光にも活用できると感じました。天草広域連合の新施設においてもこれらを参考として、協力できればと考えます。



令和元年10月31日～11月2日 天政会（池田裕之・脇島義純・中村三千人・勝木幸生・鶴戸継啓）

【東京都武蔵野市】 武蔵野市クリーンセンター

視察報告

本施設は、市の中心地である市役所の前に整備されていたのが印象的でした。選定委員会(大学教授及び住民、市職員)において、場所や処理方式の選定を行い、全連続焼却式ストーカー炉を採用され、焼却灰でエコセメントを製造されていました。

施設見学の取り組みとして、屋上に野菜を育てられ、平成30年度は年間2万1,500人が来場されていました。本施設は、安心安全はもとより、焼却施設の役割を担うだけでなく、まちに溶け込み、まちにつながる施設を目指しておられました。

視察を終えて

本施設の最終ごみを最小限に抑え再利用が可能な資源に変える取り組みなど、本市における施設計画に提言していきます。



【埼玉県ふじみ野市】 ふじみ野多目的グラウンド

視察報告

本施設は、柔軟に対応できる多目的スポーツグラウンドとして計画され、計画地の状況や課題、市民からの要望などを受けて検討をされ、ロングパイル人工芝(製品名:ドリームターフ)を導入し、平成27年4月に開設されておりました。この人工芝は稼働率が高く、それに伴い利用料金の収入も多く見込まれるとのことですが、管理面の問題点として、目視による除塵、2週間に1回、専用管理機において芝起こしやゴムチップの刷り込みが必要とのことでした。

なお、人工芝の張替え時期は使用状況などで相違も生じますが、10年間の耐用年数に準じて張替えを行うか現段階では未定とのことでしたが、今後の芝の状況を見て全面または一部張替えを検討されるとのことでした。

視察を終えて

本市で計画されているスポーツ拠点施設における人工芝についても、競技団体の皆さまのご意見を踏まえ、各種目に対応できるものを提言していきます。

【お詫びと訂正】

あまくさ市議会だより第30号(2019年11月号)15ページ、議会運営委員会行政視察先の県名に誤りがありました。正しくは次のとおりです。お詫びして訂正いたします。

誤：岐阜県米原市 正：滋賀県米原市

※市ホームページには、訂正後のものを掲載しています。